

# 高ノ山君の故郷への思いが 新聞で紹介されました。

## みんなの故郷 考えよう

二十歳に寄せて  
高山市の歩む道  
～5～

### 合併どう見る

「この20年で、合併したと実感する瞬間はあるか。」

森下さん 生活は変わらないうが、村長が県などに直接打診できた昔を考えると、今はかゆいところに手が届かないと感じる。一方、市の補助金ももたらせて運営できるようになった観光施設もある。

合併後の高山市に暮らす住民は、地域のことをどう見ているのか。生まれ故郷の荘川町で暮らし続ける森下和也さん(66)、旧上宝村で育って現在は市街地で子育てをする倉本雅子さん(35)、この春に高校を卒業して高山を離れる高ノ山青輝さん(18)と世代の異なる市民3人に、二十歳の高山市を語り合ってもらった。

(司会は高山支局長・鈴木智行)

### 「都会でできないことを」

森下和也さん(66)



もりした・かずや 旧荘川村出身の父が立ち上げた建設会社「森下商会」の2代目。母と妻、息子夫婦、孫と8人で暮らす。

「この地域で暮らす理由は、森下さん 川で魚を捕ったり、冬にスキーをしたりと思いがたくさんある。好きだから。会社ではプロパンガスの販売や、寒冷地で水が凍らないような配管工事をやってきた。住民が安心して生活できるように残っていたい。」

倉本さん 結婚して、夫の実家近くに家を建てた。病院や小中学校に歩いていけるし、利便性が良い。ただ、上宝の景色が恋しくなることもある。旧市内で子どもに自然体験をさせてあげられなくても、少し足を延ばせば自然があるのはありがたい。

### 「戻りたいと思える市に」

倉本雅子さん(35)



くらもと・まさこ 旧上宝村蔵柱出身で、東京に進学。地元で結婚し、片野町に引っ越した。長男は4歳。NPO法人勤務。

「戻りたいと思える市に」高ノ山さん 僕はお笑い芸人を目指していて、香から大阪。芸人になれたら高山をPRしたい。別の仕事に就こうとするときは、安心して暮らせる高山という気持ちはある。

「合併の後、特に変わったなと感じることは、森下さん 昔は大学を出ていい企業に勤めるのがステータス。地元に戻るのが「落ちこぼれ」と見られる時代もあった。今はやっとな文化を継承する授業があったりして見方が変わってきたが、コミュニティが破

### 「自然を残してほしい」

高ノ山青輝さん(18)



たかのやま・はるき 千鳥町在住。飛騨高山高校を今春卒業し、大阪のNSC(古本興業の芸人養成所)に通う。

森下さん 生まれ育った場所は、永久に故郷であり続けてほしい。都会でできないことをみんなが考えて、中山間地域でできた。」「(この連載は松沢侑香、平田志苑、北川鈴乃が担当しました)」「終わり

たかさん 自然を残してほしい。大阪や東京で働くつもりだけど、帰ってきたい。今、若者が帰ってこないのは、都会の方が仕事がたくさんあるからだと思う。」「今後、どんな高山市になってほしいか。高ノ山さん 経済的に発展してほしいけど、自然を残してほしい。大阪や東京で働くつもりだけど、帰ってきたい。自然を感じたい。」

森下さん 子育てがしやすくて、子どもも大きくなったら帰ってきたいと思える場所。外で勉強したことが生かせるよう、企業誘致をしたり、高山で起業するメリットを伝えたりしてほしい。」

森下さん 生まれ育った場所は、永久に故郷であり続けてほしい。都会でできないことをみんなが考えて、中山間地域でできた。」「(この連載は松沢侑香、平田志苑、北川鈴乃が担当しました)」「終わり